

## 1 研究主題 「自ら考え、ともに学び合う子の育成」 —国語科を中心として—

### 2 主題設定の理由

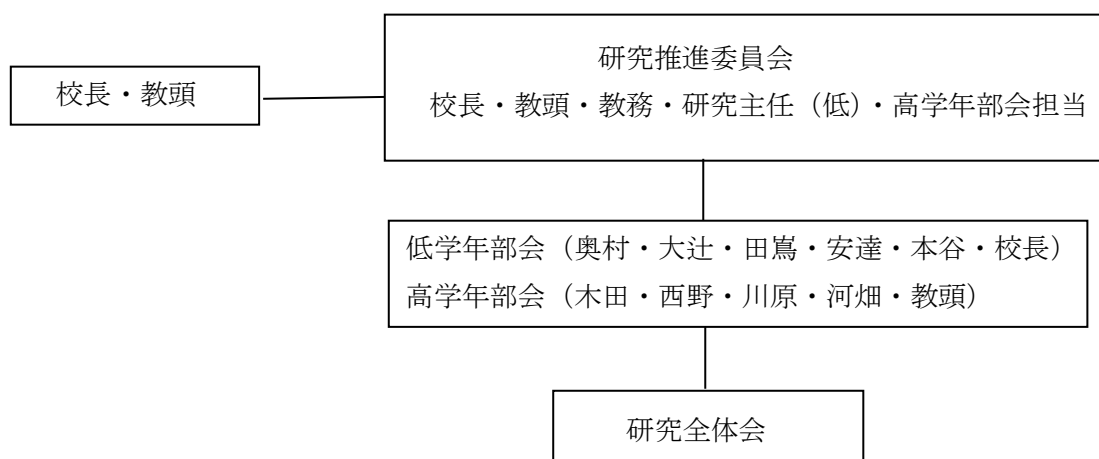
自分の考えや思いを伝え合うことを苦手とする児童が多いという本校児童の実態から、ここ数年にわたり、児童が進んで考え、話し合いながら学び合う授業を目指し、算数科を中心として研究を進めてきた。その結果、算数の学習を楽しいと感じる児童や学習に大変真面目に取り組む児童が増えた。また、教師の様々な手立てや工夫によって意欲的に課題に向かい、根拠や筋道を明確にして表現することができるモデルとなる児童も育ってきた。昨年度は、さらに、習得した知識・技能を生かすことができるように「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、生活に即した課題や単元構成の工夫を意識して研究を進めてきた。その結果、児童にも教師にも「？」→「わかった」のある授業が定着し、授業改善が進んだと考える。

一方、課題としては、算数科においても複数の要素が入り混じった問題になると、題意をつかむことができない児童や順を追って考えることが苦手な児童が多い点が挙げられる。また、記述式の問題からは、児童の書く力が十分でないことも明らかである。算数科の研究によって一定の成果は見られたが、そこから深まりが見られない理由として、児童の「読むこと」の力の弱さが浮かび上がった。

以上のことから、算数科で研究してきた「？」→「わかった」の授業づくりを継続しつつ、研究の中心を算数科から国語科へ変更することとした。現在の児童の国語科の実態は、「読むこと」の系統が比較的明確な説明的文章においても、力が積み上がっていない状態である。そこで、まず記述に即して確かに読み取る力や、思考力を働かせて主体的に読み取る力など「読むこと」の力を高めていかなければならないと考える。このような本校の児童の課題を克服するために、国語科を研究教科の中心に据え、特に「読むこと」に重点をおいて研究を進めることにした。

その中でも、本年度は「説明的な文章」を中心に研究を行う。他教科において読む文章や資料などは、ほとんどが説明的な文章である。そのため、説明的な文章を通して身に付く読解力は、他教科においても生きてはたらく力になるはずである。そのことにより、児童は学んだ意味を実感することができ、さらに主体的な学びにつながっていくのではないかと考える。

### 3 研究の組織



## 4 研究構想図

〈学校教育目標〉

自らの生き方を主体的に拓き、心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成

【研究主題】

自ら考え、ともに学び合う子の育成  
—国語科を中心として—

【研究を通してのめざす児童の姿】

○主体的に学ぶ子

・自ら課題を発見し、主体的・協働的に解決しようとする意欲をもつ。

○自分の考えを持ち、表現する子

・自分の考えをもち、相手を意識して考えの根拠や筋道を明確に表現できる。

○学び合い深め広げる子

・より良い解決に向かうための質の高い学び合いのプロセスを経て、自分の考えを再構築することができる。

○既習の知識・技能を身につけている子

・基礎的・基本的な知識や技能を身につけている。

・一時間や単元で学習したことを身につけている。

### 授業改善（学びの指針プラス 2 条・3 条・5 条）

【研究内容 1】「読むこと」の力を高める教材分析

- ・つけたい力の明確化
- ・指導方法と言語活動の開発と選定
- ・目指す姿を明確にした単元構想
- ・習得した知識や技能を活用・応用させる場の設定

【研究内容 2】「？」→「わかった」の授業

- ・「？」が生まれるしかけ  
(読みたくなる考えたくなるようなしかけの工夫)
- ・学び合いのある授業  
(読みの力を深めるための学び合いの充実)
- ・「わかった」のある授業  
(適用・活用の場の設定、ふりかえりの充実)

学習意欲の向上  
主体的な学び  
学力の向上

#### 学び合える基盤づくり

##### 学び合える学習集団づくり

- ・学びの姿勢づくり・北前プロジェクトの継続実践
- ・友達の話を傾聴できる学級
- ・めざす授業像の共有・学び合うよさの共有

##### 語彙力・言語力を育てる活動

- ・暗唱
- ・読書活動
- ・スキルタイム
- ・様々な機会に書く活動を設定

#### 温かい学級づくり

#### 生徒指導の三機能がある学級づくり

検証

- ノートやプリント等、日常の児童の記録の分析から
- 評価問題の到達度から
- アンケートや実態調査から

## 5 研究の内容

### (1) 授業改善

#### ①「読むこと」の力を高める教材分析

記述に即して確かに読み取る力や思考力を働かせて主体的に読み取る力などの、確かな学力の定着のためには、広く深い教材分析が欠かせない。既習の知識・技能の積み上げや学年の系統性を考えながら、全教員が共通した視点を持ち、教材分析を行う。

#### ア. つけたい力の明確化

年間計画・指導事項配列等をもとに、前後の学年の指導事項を確認し、系統性を考えながらつけたい力を明確にする。児童の実態も考え、つけたい力がより明確な児童の姿になるようにする。

#### イ. 指導方法と言語活動の開発と選定

つけたい力に合わせて、力がつくような指導方法と言語活動の開発と選定を行う。まず教師が試作し、その言語活動でつけたい力がつくのかを検討する。必要であれば、図書館司書などの協力を得る。言語活動の見本を見せることで、児童の学習意欲の向上や学習への見通しを持たせる。

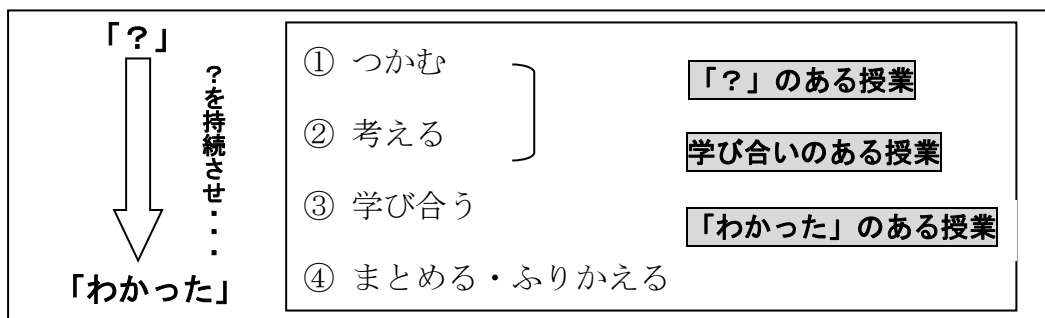
#### ウ. 目指す姿を明確にした単元構想

単元の目標を達成した児童の姿を明確に持ち、児童の実態に合わせてどのような過程で学びを深めていくのかを考える。また、単元のまとまりの中での本時の位置づけを明確にし、各時間においても目標を達成した児童の姿を具体的にイメージする。

#### エ. 習得した知識や技能を活用・応用する場の設定

その教材だけにとどまる指導ではなく、一時間の授業の中、もしくは単元の中において、習得した知識技能を活用・応用する場を設定する

#### ②「？」→「わかった」の授業



#### ア. 「？」が生まれるような意図的なしかけ **「？」のある授業**

国語科において児童が「？」を感じる場面とは、児童自らが課題を発見し、その解決のために「読みたい」「考えたい」「話したい」「聞きたい」という思いが生まれる場面だと捉える。そのためには、文章を隠す・文章を比較する・並べ替える 等、思考をゆさぶる意図的なしかけや発問の工夫する。

#### イ. 読みの力を高めるための学び合いの充実 **学び合いのある授業**

国語科では、与えられた資料を使い、ある目的に応じて読むことを求められる。個人の読みを学び合いの場に出し、他者の読みに出合うことで、新しい視点や自分と異なる読みに出合うことができる。それらの読みの中で、目的に合った最適な読みを子どもたち同士で考え、比較したり統合させたり、発展させたりすることで、子どもたちが考えを再構築していけるようにする。

#### ウ. 適用・活用場の設定 **できるようになったことを自分で自覚化できるような活動** **「わかった」のある授業**

習得した知識や技能を活用する場面を設定する。また、ふりかえりなどの活動で、児童が自身の変容を自覚化できることで、学ぶことの意味を感じ、次への学習意欲にもつながると考える。

## (2) 学び合える基盤づくり

### ①学び合える学習集団づくり

#### ア. 学びの姿勢づくり・北前プロジェクトの継続的实践

学び合う授業を創るには、学習規律が大切である。時間を守る・学習の準備・姿勢・話し手の方に体を向けるなどのことを基本とし、教師それぞれがもっている指導のよさを出し合い、共通理解を図った上で、学校ぐるみの取り組みをしていく。昨年の「北前プロジェクト」を継続し、『①授業は自分たちの声でスタート②自分から手を挙げてハリのある声で③「聞いたよ」の反応』の実践に取り組んでいく。そうすることによって、教科が変わっても学年が変わっても全校の共通実践にし、主体的に学習する姿勢や態度を育てる。

#### イ. 友達の話を傾聴できる学級

友達の発言を「わかりました」「他にあります」という決められた言葉で受け止め、自分が発言することを優先するのではなく、友達の発言を傾聴することで、より深く考えることができると思う。まずは教師自身も子どもの発言をよく聞くことから始める。

#### ウ. めざす授業像の共有・学び合うよさの共有

教師と児童が自分たちの目指す授業像を出し合い、折に触れてふりかえり、目標に向かって進むことが主体的に学ぼうとする姿勢につながっていく。

## ②語彙力・言語力を育てる活動

### ア. 暗唱

毎日朝の会に、全学年が「話す・聞くスキル」の暗唱に取り組む。「話す力」「聞く力」のスキル向上のため、「張りのある声で」をめあてに各学年に応じた課題に取り組む。文化祭の各学年の発表は、日々の暗唱を披露する場になっている。

### イ. 読書活動

・朝読書・給食後の読書タイム（給食を早く食べ終え、その後静かに読書をする。）・並行読書・家庭読書（家庭の協力も得て、毎月家庭読書の日には、家庭で読書をするを宿題にする。）などの取り組みをし、読書の習慣化を図る。

### ウ. スキルタイム

「確かな学力と活用力」の育成をめざし、毎週水曜日の5限終了後の20分間、『かもめタイム』を実施する。全学年「ことばの力」の基礎基本の定着に加え、活用力問題にも取り組む。

### エ. 様々な機会に書く場を設定

各教科において、ふりかえりの時間を設定する。他にも、様々な場面において、正確に書くことを求められる場面を除き、まずは間違いを恐れずにどんどん書かせ、「書くこと」が当たり前になるようにしていく。そこでは、目的意識・相手意識をもって書かせるようにする。教師が読んでコメントを入れる、書いたものを紹介する場を持つ、書いたものを受け取る相手を置く、などの工夫をし、書くことに必要性や喜び・楽しさを持てるようにしていく。

## 6 研究計画

- ・ 全員授業公開する。
- ・ 全体授業を各学年 1 回ずつ行う。(計 6 回)
- ・ 指導案検討や模擬授業、実践、授業整理会を通して、教材や指導過程・指導方法について研究する。
- ・ 指導主事から助言を頂く

4 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究計画の作成</li> <li>・ 4 月 1 2 日 (水) 研究全体会 (今年の研究計画)</li> </ul>
5 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究全体会 (主に、今年度の研究の柱の確認)</li> <li>・ 全国学力調査・基礎学力調査 第一次分析</li> </ul>
6 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6 月 模擬授業 (2 年)</li> <li>・ 6 月 全体研究授業 (2 年)</li> <li>・ 6 月 模擬授業 (6 年)</li> <li>・ 6 月 要請訪問 (6 年)</li> </ul>
7 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7 月 研究全体会 (2 学期からの研究の重点について)</li> </ul>
8 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国学力調査・基礎学力調査 第二次分析</li> <li>・ 8 月 小中合同研究会 指導案検討・模擬授業 (5 年)</li> <li>・ 8 月 模擬授業 (4 年)</li> <li>・ 8 月 模擬授業 (4 年)</li> </ul>
9 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9 月 計画訪問 (1 年)</li> <li>・ 9 月 2 6 日 (水) 小中合同授業研究会 (4 年)</li> </ul>
10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 0 月 模擬授業 (5 年)</li> <li>・ 1 0 月 全体研究授業 (5 年)</li> </ul>
11 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業交流月間</li> </ul>
12 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 2 月 研究全体会 (3 学期の研究の重点について)</li> <li>・ 2 学期までの研究のふりかえり (各学年)</li> </ul>
1 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究のまとめ</li> <li>・ 1 月 研究全体会 (今年度の成果と課題及び来年度の方向性)</li> </ul>
2 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「北前プロジェクトレベルアップ週間」</li> </ul>
3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度に向けて</li> </ul>